

デンタル・プレゼンテーション

Dental presentation



内山 茂 (うちやま しげる)

1977年 東京医科歯科大学卒業
 1984年から2013年 所沢市ウチヤマ歯科医院院長
 1998年から 東京医科歯科大学臨床教授
 2013年から 東京医科歯科大学臨床研修医指導医
 1978年から約20年間母校同窓会で卒業教育の一環として学術講演会の企画運営に当たる。その後開始した自身の講演活動は延べ300回を超え、現在はその経験を生かして、プライベートセミナー、オーダーメイドセミナー等により後進の育成に尽力している。

「デンタル・プレゼンテーション」vol.6

第2部(各論)

<文字数と文字の大きさ>

以前、スライドを使って話をしていたある講師が「文字が小さくて後の人は見えないかもしれませんが…」といったところ、前列の人が「ここからも見えませんが…」と皮肉ったという話があります。

歯科の講演では、基本的に会場が暗くスライド枚数も多いので、文字数の多いスライドが続くと質の低いプレゼンになってしまいます。文字の大きさにも配慮が必要で、遠くから見える文字の大きさの限界は 24pt。それ以下の文字は引用文献等の飾り文字またはメモになります。基準の文字の大きさは 30～36pt が適切です。これなら聴衆の視覚に自然に入っていくので、読み上げる必要がありません。逆に 24pt 周辺の文字が多い時には、ゆっくり読み上げた方が間違いなく伝わります。スライド作成中は、メモ書き代わりに詰め込みたくなりますが、最近のソフトには聴衆に見えない note 機能(読者のメモ書き)が付属しているので、これを利用して、メインスライドは最小限の要点だけにしましょう。長い文章を引用する場合は、そのまま配置せず、**段落ごとに適度の行間を開けると読みやすくなります**。また、その文章がテキストのどのページに書いてあるか、あらかじめスライドに記載しておけば、受講生が手元のテキストで文章を確認することができます。



文字の大きさはこのくらいが限界。最初からすべてを映すのではなく、ビルドイン機能を利用して時間差で解説する。文字数が多い場合や、表、フローチャートなどは、プリントした資料を配布しておき、それを見ながら説明すると良い。



文字が多い場合、左より右のスライドの方が格段に読みやすい。テキストの参照ページを付記しておけば、参加者が手元で資料を読むこともできる。

<フォントはテーマで統一する>

フォントを明朝体にするかゴシック体にするかはかなり重要です。私の場合、文献の引用などの文章系は明朝体、項目・強調文字などはゴシック体といったように使い分けています。その他、思いのほか講演に向いているのが隷書体です。これは漢字、ひらがなとも柔らかい雰囲気が出るので、会話文などを再現するような時に便利です。インターネット情報ですが、P(プロポーショナル)フォントは文字幅が同じで、文字間のバランスがよくなり、見やすくなるといわれています。迷った時は MS P ゴシックで統一しましょう。欧文文字は Times あるいは Century Gothic が無難です。これらは基本“おしゃれ文字”なのでタイトルや小項目などに用い、文章系は通常ゴシック体で仕上げます。

<トランジションでプレゼンを演出する>

プレゼンソフトでは、画面と画面の切り替わりである「トランジション」機能を活用してプレゼンの質を高めることができます。ただし文字色と同様、過剰に使用しないことがポイントです。トランジションの基本は「ディゾルブ」を使います。継続時間はデフォルトの 1 秒では緩慢になるので、0.5 から 0.75 秒が適切です。ちなみにトランジションなしに設定すると、瞬時にスライドが切り替わります。通常はこの二つで十分ですが、テーマが変わる時などに次のスライド画面を目立たせたい場合に限り、「キューブ」や「ページ送り」などの特殊なトランジションを用います。プレゼン制作時には、トランジションの種類が多いほど変化が出て良いように感じるものですが、使いすぎると聴衆が画面の変化について行けずに混乱してしまいます。くれぐれもご注意ください。

“メルサーージュ クリアジェル / キッズ”

2種類の殺菌成分と消炎効果剤配合のホームケア用口腔ケアジェルで、歯科医院と家庭レベルにおけるフッ化物応用が可能です。フッ素濃度は 950ppm の一般用と 500ppm のキッズ用の 2 種。歯ブラシや PMTC ツール



メルサーージュ クリアジェル / キッズ

で使いやすい硬めの粘度で、チクソトロピー性により、歯ブラシに置いた時はピタッととり、ペーストに負荷を加えると口腔内の隅々まで行き渡りやすくなります。唾液の流れが悪く脱灰が起こりやすい、上顎の最後臼歯部遠心や下顎の小・大臼歯頬側にもフッ素ジェルをしっかり塗布でき、またトゥースペーストテクニクにも活用できます。院内では PMTC 後のフッ化物塗布や研磨剤を使用できない患者さんへの PMTC ペーストや、ホワイトニング後の知覚過敏予防や重度のカリエスリスクコントロールが必要な方への 3DS ペーストとして使用する先生もいらっしゃいます。